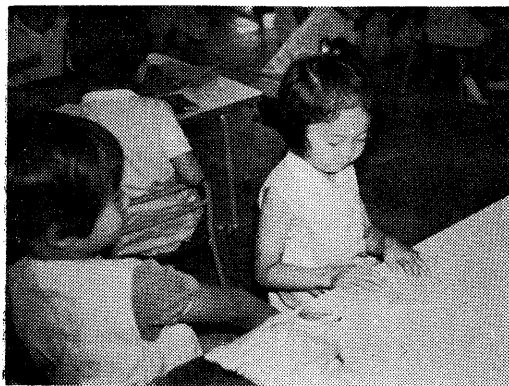


手先の動きと子どもの感情⑥



清水エミ子

一、問題に対決する指や手

子どもたちの指の動きや表情を、指だけから、または手の平のなかにある指として、みつめてきたが、指や指先、手の平とつき合えばつき合うほど、その部分に、その子の人格全体が集約されているのではないか、と思うようになってきたのだ。

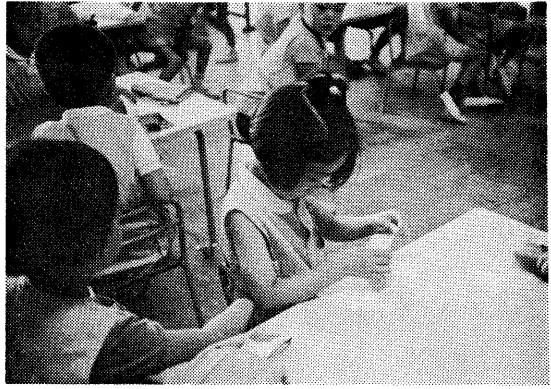
しかし、そう思えば思うほど、まちがえてみてはいけない、指や指先を過信しておぼれてはいけない、と、ひとつひとつの事例を大切に、具体場面をみつめなおしてみることにした。

例1 アクセサリー化している指先

自分のまわりにおこるどんなことがらにも積極的にやってみようと活動に参加するみえこなのだが、

- ・参加していく時の積極さにくらべて指先の動きが消極的。
 - ・手の平は動いているが、指先が動いていない。
 - ・活動をくりかえしてやってみようとしなない（表面をなでてあ
- るいているよう）。

友だちの育子が、折紙を持って通り過ぎようとしたのを見て、みえこは、「あたしもやろう。あんだ、なに色持ってるの、おんなじにするからね」と。



真真 1

育子と同じ黄色の折紙を取ってき

たみえこは、育子のサイフを折るのをみているうちに

指先にだんだん力が入ってきた。

・これからやる

ぞ、というきんち

ょうの力のように

も見えたのだが、

そうではなかった

のだ。

育子がさっさと折っているのをみて、型だけはまねているが、

活動をはじめると、

・指先から力がぬけて動いていないのだ。折紙をそっとなでて

みているだけ。

「あたしサイフしてたんだよ、ほんとは」などといいながら

も手には、指先には一向に力が入らない。育子のをみながら、の

そののそりやっとならサイフを仕上げた。(写真1)

・みえこの指は、しっぱいをおそれて、いざという時に活動が

止まってしまうのだ。表面は動いているようにみえても中味は、
なで、さすっているだけになっている。

気持は活動したいという勝気であるが、指先はみえこの心のお
くにひそんでいる、しっぱいをおそれていることを表わして、ブ
レーキをかけてしまっているのだ。

例 2 いつでも何かをいじり、何かをしているひでのぶ

・いちどやってみたことのある活動には、指先は動くが、はじ
めての活動になると指先は止まり、手の平でなでまわしてしま
う。

・いちどやってみた単純な活動のくりかえしでも、手の平の動

きにまかせて、指先を活動させない。

「積木ってどうしてくずれちゃうのかなあ」とひとり言をいいな
がら、三歳児の積木のようにベタリ、ベタリと手の平全体を積木
にくっつけてにぎったり積んだりしている。そのために、くずさ
なくてもいい積木をくずしてしまうのだ。

いっしょにそばで積木をしていたつおが、くりかえしくず
すひでのぶに、

「もつとはやく手をはなすんだよ、ずっとさわってるからだ
よ」と教えていた。ひでのぶはいわれたとおり手をはなすが、さ
わっているのが手の平の方が多いので、やはりくずしてしまっ

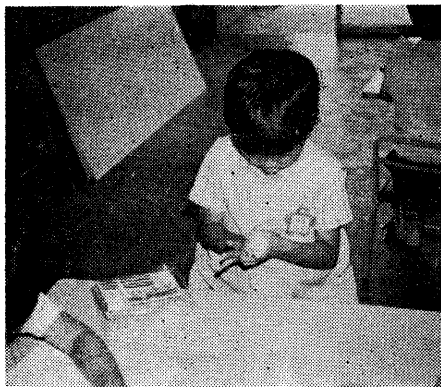


写真3

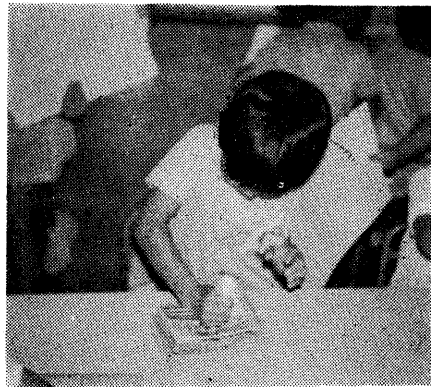


写真2

いた。

指先をみていると、力が入っているのだが、そりかえっていて、やろうとするものにさわれないのだ。指先は、のっそり、のっそり手の平についていくかっこうになっている。

例1・例2、どちらも、表現はちがっているが、

・しっぱいをおそれ、指先が、アクセサリー化していることがわかる。

表現のみでくれだけは、他の児と

おなじに動いている。しかし指先は、そつとまでしているだけ、積極的ではなくなっているのだ。全体を、ばく然とみてはんだんしてしまうと、みえこもひでのぶもみんなといっしょに活動しているのだ、まちがえられてしまう。ほんとうに指先が積極的にダイナミックに生き生きと活動するために、どうしたらよいか考えなくてはならない。正しくみつめ、みあやまらないようにすることではないだろうか。

しっぱいをおそれる、アクセサリー化が一番子どもたちにずるさを教えてしまう。

ランボウに動くときみる指先

例3 いつでも指を動かしている(写真2より)

「ちきしょう、こんな紙、しようがないなあ」と、船作りのエントツを立てようと画用紙に取り組んでいるが、ただ紙をつついて立てるだけなので、たおれてしまう。

指に力を入れておしつけていたが、立たずにたおれる。

そのうち、上から力を入れておしてみた、強くおしたので、つつの下が少ししわになった。ゆきおは、指でそのしわをなで、次に指先でつまんでひっぱった。

そしてもう一度、立てなおしたが、またたおれた。そこで、前より力を入れてつつをおしつけてみた。さっきよりたくさんのしわ

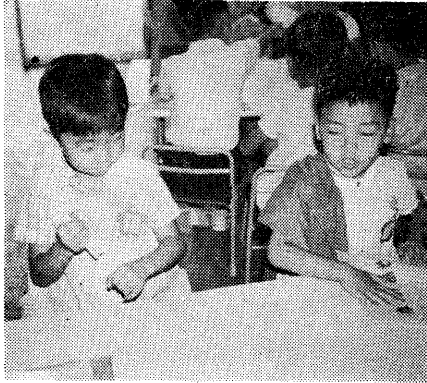


写真5

が、そこが、ふとくなるからだ、ひろがってるからだな」といったとたん、指で、つつのしわの部分、たてに「えい」といいながら、さいたのだ

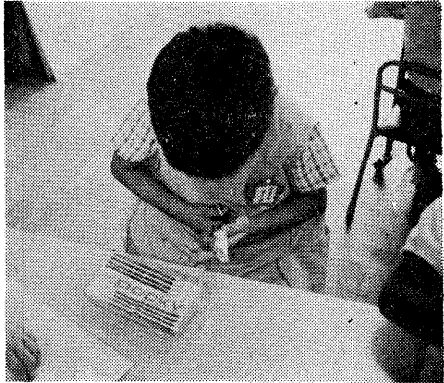


写真4

ができえんとつは立った。ゆきおは、じつとながめたあと、そのしわをそつとなで、「しわくちやのえんとつなんか、へんだな」といって、もういちど、しわをひつりのばした。

(やぶいた)。
みていたよしひろが「はさみでできればいい」とびっくりしていったほどのいきおいでやぶいてしまい、のりをつけてえんとつを立ててしまったのだ。
まり子は、「はさみで切るもんだよ、ゆきちゃんてらんぼうね、いつもそうなのね」というと「だってね、はさみどりにいってやるまにわすれるといけないじゃないか、はやくやりましたんだもの」と口をとがらせて、いいわけをいって、次の画用紙のはし切れをつまんでいた。

近よった私に、ゆきおは、

「先生、ぼく、えんとつはじめ立てれなかったけど、やれたよ、ほら、したのほう、やぶいてはったの。ひろげればいいんだね。ぼくしらなかつたんだよはじめ。すぐたおれて、しゃくでしようがなかった。でも、できたでしょ。うえからセロテープでやったほうがいいかな」

といいながら、指は、セロテープをつまんでいた。

この時のゆきおの指先や、手の動きをみると、まり子がいったように、らんぼうに見えるのだが。

えんとつを立てようとして立たない、このくりかえしの指の活動は、

・紙に対してまず、抵抗していったのだ。

・次に積極的に紙にちょう戦していった。

・やってみて、くりかえすうちにらんぼうに、やぶいてしまった。

・やぶいたことよって成功を感じている。ゆきおが、はじめところろみようとした活動に対して指先は、まず抵抗的に、つまんだり、はじいたりした(らんぼうにみえる)。

そして、できたしわなどに対して積極的にいじって、たしかめをはじめ、のぼしたりさわったりした。

・指先に力を入れて積極的に対した結果できたすじをやぶいた(らんぼうに)。このらんぼうな指の動きが、ゆきおに、えんとつを立てる、という目的を達成させた、(成功させた)のだ。

そつと静かに動く指よりも、ゆきおのように、らんぼうなくらいに活動に対決していく指先の動きのほうが、いろいろな方法での成功をかちとるようだ。

例4 指にふれた問題を大切にみつかう指(写真6〜12)

ていきょうされた問題を大切に、くりかえしあつかっている指先。

桂子は、あまり目立って指や手を動かす子ではないが、活動を開始すると、快いリズムで指先が動き出す。

エンジンのかかった機械のような指の動きになる。

・けっして、人のまねをしない

で、自分の考えで、指先につたえて動かしている。

・まよわず、その物に指先をぶつけていく。

・やってみた結果で、次の指の動きを考えている。

「桂子ちゃん、木で人間つくろうよ」ときそわれると、木工あそびのペランダに出ていく。

しばらく、じつと材料をながめ、キリ、針金のあり場所をたしかめ、

写真6

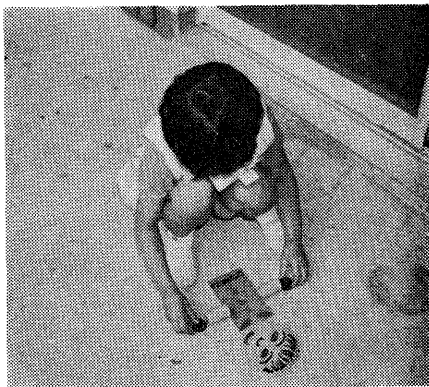
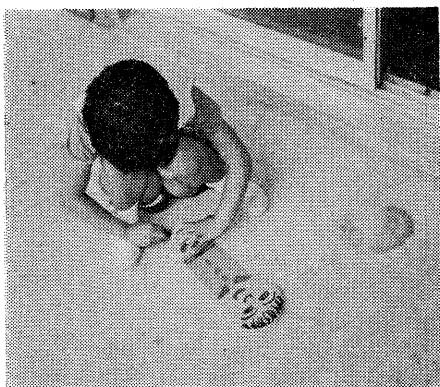


写真7



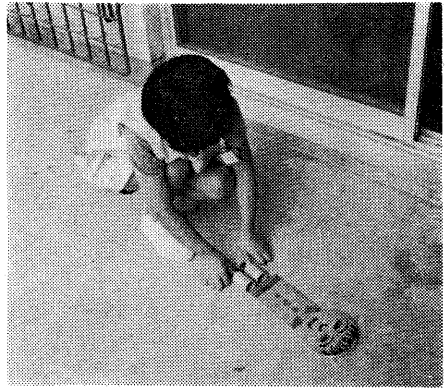


写真 8

「つくろう」といって、材料をえらび取り、活動を開始した。

まず円と四角の木切れを、指先でなでたり、つめで、たたいてみたりして、たしかめる。

・床に木切れを

ならべ胴体を作り、糸巻を手や足に見立て、よこにおいてみた。「こうやろうか」といいながら、手と足の糸巻を変えておいてみる。

・おいたただけなので、糸巻がころがり出す、それを指先でつまんで、おきなおしをする。

・頭と胴体との間も、指先二本で、かげんをしてみている。

・胴と頭の板切に、クレヨンで穴のいちのしるしをつける。

・しるしの上をキリで穴をあけはじめる。

ここまで桂子の指や手の動きをみると、活動のエンジンをかけるための、たしかめなのだ。一本の指で、または二本の指

で、いちのかげんをしたり、さわったりしている。

他の子どもたちにはあまりみられない活動なのだ。

指先や手が、ていきょうされた問題や場面を、大切にしていねいに、たしかめている。

・キリで穴をあけはじめても、時々、木切をうらがえて、穴のあきぐあいをみている。

・キリの先についていた木のかすを、そっと指先三本でなでとおとし、胴のくび穴をあけた。

・針金でつなげる時も、まず針金のまがり具合を両手の人さし指と、親指でたしかめ、指のはらでまげてみてから、

「かたいものは、かたいほうで、まげなくちゃだめだね」といってから、つめをつかかって、まげてみて、

「こうやると、まげようとおもうところがまるね」と、うなずいてから木切をつなぎはじめた。

このようにして桂子は、友だちがつかわない材料をつかって人形を作りあげたのだ。

他の子よりも、指の動きはのろい、どんかなな表われであるが、動く内容や中味はだれよりも充実しているのではないか。

桂子の指は、指にふれたものを、大切にたしかめるからだ。

ゆっくりと確実にさわり、たしかめるのだ。あまり目立たない指の動きに、ていきょうされたものを大切に、いろいろな面から

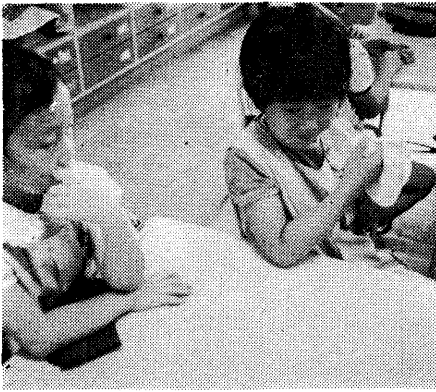


写真10

「桂子ちゃん、
いっしょにやろ
う、ここ、こうや
りなさいね」とい
われても、ふだん
無口な桂子でも、
「あたしは、こ
うやるの、こっち
のほうがいいの、
だってブラブラに
ならないもの」と

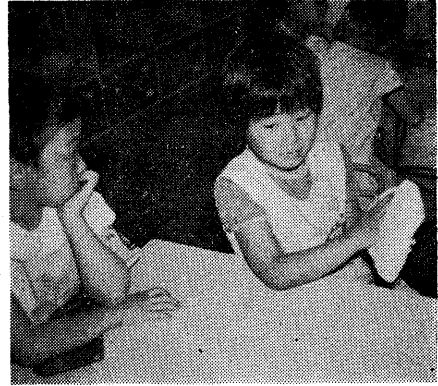


写真9

たしかめ、対決し
ている、たくまし
さと、するどさを
感じる。
このようにしん
ちように物に対す
ることが出来る指
なので、人まねを
しないですむの
だ。

いい切り、作品を右の人さし指と親指でつまみあげて、その理由
をせつめいしているのだ。

桂子の指の動きをみていると、

- ・桂子の命令をすなおに指や手が受けとめている。
- ・指や手の表情を桂子が、まがいなくよみ取って次の活動を
はじめている。

- ・指や手と桂子が全く一体になっていることが伝わってくる。

・問題に対決している時の桂子のたくましさにくらべて、問題
に対決していない時の、しずかに、そっと桂子の体によりそって
いる指や手が、桂子の人間性を表わしている。

しずかな表情の中に強くひそんでいる力強いエネルギーを、桂
子の指や手から感じることが出来るのだ。

桂子のジャンケンには、手くび全体がきんちようしてやってい
る。

かみを出す時は、手の平全体がみごとひらき、はきみも、中
指も人さし指がびんと伸び、のこりの指は、ぎゅっとにぎられて
いる。いしも、全部にぎった手のこうが、バンバンにはりつめ
て、きんちよう感があふれているのだ。

ハンカチーフで、手をふくやさしい桂子の手指、植木に水をや
り終わって、水道でよごれた手を洗い、ホットたためいきをつい
て、

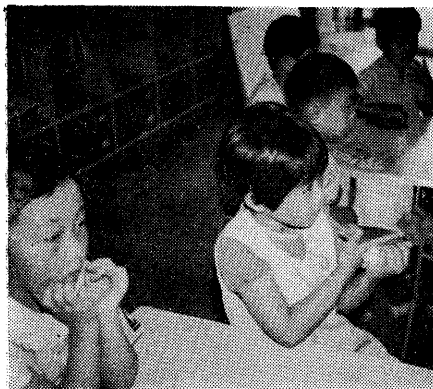


写真12

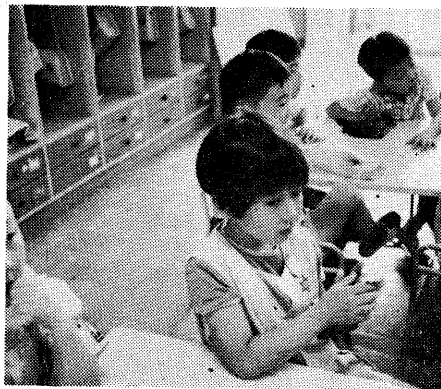


写真11

「あーおわったね」と、かたわらのやすこに話しきり、そっと左の親指と人さし指で、ポケットからハンカチーフをつまみ出してひろげ、そっと、手をふきはじめた。

やわらかく右手が左手をふき、左手が右手をふいている時の桂子の手の表われは、やわらかく、やさしく、活動に対決している時とは、打ってかわった、やわらかさなのだ。このように豊かな

な表われをする桂子の手はしっぱいが少ない。やってみることは、ほとんど、かくとくし成功することができ、しんちょうさをそなえているのだ。

例1のみえこのように、外見しずかに、ゆっくり活動しているようにみえても、対決の仕方が、アクセサリー化しているとしっぱいが多い。そして指の表情も、とぼしくなってしまうようだ。しっぱいをおそれて活動している指や手のほうが、かえって多くしっぱいし、つまずき、指や手をきずつけているようだ。害をおそれている、よわむしの指や手は（無害をのぞむ指）成功をつかむことができないでしまっている（無えきである）。

指や手の無害を考えてアクセサリー化させてはいけない。ていきょうされた問題に指をすなおに一度は対決させ、ていきょうしてみさせるようにしてはならない。そして、ていきょうされた問題や活動を大切に、ていねいにくりかえしくりかえしあつかってみられる、積極的な指や手に、くんれんしなくてはならない。

手や指の動きをみつめ、問題に対決していくときの表われをよみとり、成功をつかみとらせなくてはならない。この成功のつまみ取りが、真理をつかんでいくのではないだろうか。

指先が、人間の真理をただしくつかんでいくといってもよいように思われるのだが。

（大田区立蒲田幼稚園）